

書 評

「家畜行動図説」

著 者：佐藤衆介・近藤誠司・田中智夫・楠瀬 良

発行年：1995 年

発行所：(株)朝倉書店

価 格：4,120 円

森田 茂

酪農学園大学，江別市文京台 069

本書の前書きには、本書の作成にいたる経緯が述べられている。それによれば、本書の計画は、「行動の類別である行動目録を、写真および解説という形でまとめあげる」ことにあると述べられている。確かに、4章の構成（全112ページ）からなる本書の大部分は、第3章（80ページ）の「行動のレポート」が占めている。これらは、家畜行動学を標的として学び、研究するものにとっては非常にありがたいものである。

最近、各種動物の行動や習性に関連したテレビ番組や話題がマスメディアをにぎわしている。そのためか、行動学を学びたいと大学やゼミを選ぶ学生が多い。そういった学生を指導する初期の段階から、行動目録の把握はきわめて重要な意味を持つ。時として学生と私たちの会話は、擬音やジェスチャーを交えたものとなりがちである。そこで、この本を手元に置き、お互いに言葉の基本をこの本とすることにより、より学習効果が高まっている。単なる文字の羅列ではイメージのわからない、行動学の学習の初期段階において特にこの点に関しての効果が高いようである。このことは、計画としている「写真および解説という形でまとめあげる」が功を奏した結果であろう。

本書に示された各種行動の写真データは、多くの研究者たちの提供による。行動目録の作成とともに、このような写真データの収集と掲載についてその意義は大きい。欲を言えば、写真（画像）データをファイルとし、CD-ROMなどで別に提供していただきたかった。著作権の問題は大いにあろうが、そのことを特に問題としない写真について、自由な利用をさせていた

だければ、講義などに際し、きわめて有効なデータ集となるであろう。いずれにせよ、現在コンピュータの利用が急速に発達し、画像の利用に関してはさまざまな方法が試みられている。本書の一つの特徴である「写真データ」を最大限に生かす意味でも、これら写真データの提供について次版からは一考をお願いしたい。さらに、将来は、写真データにこだわらず動画も含めて提供されることを期待したい。

本書は、第3章の内容に代表されるが、その他の章にも有益な情報が収められている。第1章の「家畜行動学の概念」は是非とも熟読していただきたい。また、各種行動調査の実施計画を策定する前に参考にする資料として、第2章の「行動調査の方法」は、非常に有益である。これまで数多くの行動調査を行い、各種解析を行ってきた者にとっても、またこれから始めようとするものにとっても、これら第1章および第2章は、行動学の入門書・解説書的な部分として活用ができる。第4章には、各種家畜の社会構造について記載がなされている。しかもいずれの家畜でも、野生種（あるいは野生条件下）での社会構造と家畜種（あるいは人為的な管理下）の社会構造が記載されている。この記述の仕方は、家畜の社会構造を理解する上で非常に有効であると思われる。

このような各章の構成から、「家畜行動図説」は、家畜の行動単位の解説本にとどまらず、家畜行動学全般の解説書としての価値を有している。このことから本書は、家畜行動を学ぶ者、あるいはこれから学ぼうとする者にとっての必携本であるといえる。